

令和7年度園芸学部長と学生との懇談会について

懇談会テーマ

「A I と共に生きる時代の大学での学びについて」

実施日：7月3日（木）16:10～18:00

場 所：松戸キャンパスF棟4階大会議室（対面実施）

出席者：【教員側】研究科長・学部長、学務委員長、教務委員長

陪席（事務）：事務課長、総務係長、会計係長、学務係長、学生生活担当専門職員

【学生側】学部生6名、大学院生6名

懇談会の開催に先立って、学生からテーマに関する意見（[学生の意見] 提出様式使用）を収集し、当日はそれに基づき意見交換を行いました。

（AI の利用状況、不安や期待について）

利用方法としては、レポート作成時の誤字脱字チェック、論文の要約・和訳、専門用語の検索、画像生成が主だったものでした。

利用するにあたっては、便利なツールであると認識しつつ、個人情報や研究に関する情報を入力するリスク、生成された情報の信頼性に不安を抱いており、また、自身の思考力の低下にも懸念を抱いていました。

（AI と共に生きる時代において、大学で学ぶ意義について）

分野による差異はあるが、学修・研究の場において、AI で生成されたものだけでは十分とは言えず、自身の思考力・想像力、コミュニケーション能力・協働性は「人」を通じて得られる能力であり、大学での学修で得られるものとの認識は学生・教員ともに共通した認識であることが確認できました。

（まとめ）

意見交換から、学修の場における利用の線引き（ルール作成）、あるいは有効な活用方法を教員から得られることを学生が期待していることが確認でき、園芸学部・園芸学研究科では、AI に関するリテラシー科目を新設すること、今後のFD研修などを通じて、全学指針で示された留意事項（情報漏洩、著作権、誤情報など）を教員間で改めて共有し、その共通理解を土台として、各教員が授業目的に応じて一貫性のある適切な判断を下せるよう、判断基準の共有化を図っていくことを確認しました。

また、大学全体としてAI利用に関する統一的な基準の作成や認識の統一化を推進していくよう、大学本部に意見提出します。

上記の内容は、園芸学部・園芸学研究科の意見として大学本部に提出します。併せて松戸キャンパスにおいては、学生からの要望・意見をもとに改善にむけて検討を進めていきます。